

(平成29年7月分)

部 門	市況の概要
(青果部の動向) 全般	<p>7月の青果物の入荷量は、6月末の気温上昇や降雨の影響で生育良好となり前年同月並みであったが、野菜の需要低迷により、単価は前年同月比で12%下回った。</p> <p>8月は、枝豆やとうもろこし、露地物のブドウ等が最盛期を迎える、松茸や新物のリンゴ、日本梨等の入荷が始まる。</p>
野 菜	<p>野菜の入荷量は、土物類において小玉傾向となったものの、7月まで冬春産地の出荷が続いたことにより、前年同月並みとなり、単価は需要低迷により前年同月比で17%下回った。</p> <p>根菜類の入荷量は前年同月比並みであり、単価は32%下回った。</p> <p>葉菜類の入荷量は前年同月比並みであり、単価は12%下回った。</p> <p>果菜類の入荷量は前年同月比で8%上回り、単価は15%下回った。</p> <p>土物類の入荷量は小玉の比率が高く、前年同月比で9%下回った。また、消費需要の低迷により、単価も33%下回った。</p>
果 実	<p>果実の入荷量は、出荷開始時期が遅れたため、前年同月比で9%下回り、出遅れに伴う品薄感の強まりにより、単価は8%上回った。</p> <p>柑橘類の入荷量は前年同月比で4%下回り、単価は前年同月並みであった。</p> <p>リンゴ類の入荷量は前年同月比で6%上回り、単価は15%下回った。</p> <p>モモ類の入荷量は前年同月比で11%下回り、単価は7%上回った。</p> <p>ブドウ類の入荷量は前年同月並みであり、単価は8%上回った。</p> <p>メロン類の入荷量は前年同月比で15%下回り、単価は11%上回った。</p> <p>スイカ類の入荷量は前年同月比で10%下回り、単価は9%上回った。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長ダイコン	北海道、青森から入荷された。高温による品質低下から入荷量は前年同月比で3%下回った。また、加工需要及び消費需要の低迷により、単価も34%下回った。
西洋ニンジン	北海道、青森から入荷された。入荷量は前年同月比で4%上回り、単価は41%下回った。
【葉菜類】 ハクサイ	長野から入荷された。相場低迷の影響から出荷調整が行われ、入荷量は前年同月比で3%下回ったが、加工需要及び消費需要の低迷により、単価も5%下回った。
キャベツ	長野、群馬を中心に滋賀、京都から入荷された。入荷量は前年同月比で4%上回り、単価は24%下回った。
ホウレンソウ	岐阜を中心に茨城、群馬、静岡、京都、滋賀から入荷された。入荷量は前年同月比で4%上回り、単価は10%下回った。
レタス	長野から入荷された。入荷量は前年同月比で3%上回り、単価は16%下回った。
【果菜類】 キュウリ	福島、愛媛、長野、京都から入荷された。入荷量は前年同月比で13%上回り、単価は24%下回った。
ナス	徳島、岐阜、香川、熊本、京都から入荷された。入荷量は前年同月並みであり、単価は21%下回った。
トマト	北海道、岐阜、京都から入荷された。入荷量は前年同月並みであり、単価は15%下回った。
ピーマン	大分、宮崎、兵庫から入荷された。入荷量は前年同月比で33%上回り、単価は20%下回った。

【土物類】

バレイショ
(マーク含む)

千葉、茨城を中心に青森、北海道から入荷された。小玉比率が高く、入荷量は前年同月比で 11% 下回った。また、気温上昇により消費需要が低迷し、単価も 30% 下回った。

タマネギ

兵庫から入荷された。バレイショ同様小玉比率が高く、入荷量は前年同月比で 3% 下回った。また、消費需要の低迷により、単価も 51% 下回った。

【その他野菜】

生シイタケ

徳島、北海道、和歌山、岡山から入荷された。入荷量は前年同月比で 3% 上回り、単価は 13% 下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスミカン	和歌山、大分、長崎、佐賀から入荷された。入荷量は前年同月比で5%下回り、単価は前年同月並みであった。
ふじ	青森から入荷された。入荷量は前年同月比で38%下回り、単価は前年同月並みであった。
桃	山梨、和歌山、長野、福島、岡山から入荷された。入荷量は前年同月比で11%下回り、単価は8%上回った。
デラウェア	山形、鳥取、大阪から入荷された。入荷量は前年同月比で4%上回った。また、競合品目がなかったため、単価も10%上回った。
アールスメロン	静岡、京都、高知から入荷された。入荷量は前年同月比で10%上回り、単価は前年同月並みであった。
アンデスマロン	山形から入荷された。入荷量は前年同月比で19%下回り、単価は8%上回った。
大玉スイカ	石川、長野、山形から入荷された。入荷量は前年同月比で10%下回り、単価は9%上回った。